

平成30年度の教育活動等に対する学校評価書

平成31年 2月27日

学校法人頌徳学園三和幼稚園長 金原 順一

学校法人頌徳学園三和幼稚園学校関係者評価委員長 齊藤 早苗

1 幼稚園の教育目標

元気で明るくのびのびした子ども

情操豊かな子ども

友達を遊べる子どもを柱として、よく見てよく聞いてよく考える子の育成をする

2 本年度の重点目標

今年度は新教育要領の改訂により、子どもが主体的、対話的で深い学びができるような保育を心掛ける。新教育要領を見直し、職員研修を行い、子どもが生き生きできる保育を実現していく

平成31年2月27日 学校関係者評価委員の意見を下記の通り報告します

平成30年度 三和幼稚園 学校評価委員長 齊藤 早苗

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園取り組みの反省と改善策	評価点	評価、意見
保育の計画性	指導計画に沿って、日々の生活におろしていく	B	毎年子どもの状況が違うので、学年で相談し変更していった。結果無理なく子どもも、保育者も楽しんで取り組めた。	B	子どもたちがに合わせて楽しく園生活を送れているのだと感じている。

	子ども達の現在の成長に合った計画をしていく		今後は保育内容を深め生き生きした幼稚園生活を送れるよう計画していきたい。		今後も子どもに合わせて行事等を計画して行ってほしい。
保育のあり方・ 幼児への対応	ひとりひとりの発達に合わせて、主体的・対話的な深い学びができていたか。	B	クラス人数にもよるが個々の様子が非常に捉えやすく、一人ひとりに合わせた対応がしやすかった。生活面の習慣づけも指示を素直に受け入れ挑戦したり頑張ったりしてくれる子が多かった。今後は主体的に生活を送れるよう、援助方法・声の掛け方を見直していきたい。	B	経験ある先生や、新人の先生など幅広くいる中で、どの先生にもよく見ていただいた。 生活面で、家庭でも親がやってしまうことが多いので、幼稚園では、目標に掲げてある主体的、対話的な深い学びを実践し、成果を発信して行ってほしい。
職員の資質向上 保護者への対応	子どもが今後よりよい成長を遂げるために保護者の思いに寄り添いながら、3者一体で進めていく	B	年度末に面談をしたり、市の巡回相談を通して、保護者に共に育てていく気持ちで伝えるよう努力してきた。 おたよりではつぶやきを増やしたことで、保護者も楽しみにしてくれていたのので、今後もおたよりの内容を全体で検討していく必要がある。	B	もっと情報を発信していったらどうか。 SNS等を利用していってもよいと思う
研修と研究	・研修で得た知識や情報を職員間で共有し保育に生かしている	C	職員間で情報や保育間をもっと共有できたらよかった。 園内の自然を通して保育もしていきたい。	B	色々な子ども達がいると思うので、一人ひとりに合った指導を今後も研修を通して学びは必要だと思う

評価結果の表示

A	十分成果があった	B	成果があった	C	少し成果があった	D	成果がなかった
---	----------	---	--------	---	----------	---	---------

4 今後取り組むべき課題

園からの発信を多くし、わかりやすい内容で伝えていく
身近な自然に興味を持たせるために、園庭環境をまず整備していく
教職員間で共有の場をもてるように園内研修の場を設ける

